

令和7年度 公立小松大学入学者選抜試験
一般選抜（中期日程）試験問題

小論文

【国際文化交流学部】

国際文化交流学科

（注意事項）

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないでください。
- 2 問題用紙は本文4ページです。答案用紙は2枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、横書きで記入してください。
- 5 アルファベットや数字は、1マスに1字で記入してください。
- 6 字数制限のある解答については、句読点を1字と数えてください。
- 7 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

I. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

決まりきった日常生活の労働の義務や人間関係のしがらみから抜け出て、余暇を過ごすことは自由を手にすることを意味する。余暇に自分がどのような観光地を訪れ、どのような景色や街並みを観光の見所とみなすのかは、自由な〈わたし〉の個性の表明ともなる。

ただし、こうした個性は、社会的に構造化され組織化された「観光のまなざし」のもとにある。ジョン・アーリが指摘したように、観光地は記号の集積であり、目の前に現れる(A)「風景」は記号を通してすでに構築されている(アーリ他 2014)。パリの街角やバンコクの寺院で観光客のまなざしがとらえるものは、すでにマスメディアによってイメージ化されてきたロマンティックな「花の都パリ」であり、エキゾチックな「微笑みの国タイ」というわけである。

こうした観光のまなざしには、「集合的」なものと「ロマン主義的」なものがある。たとえば、夏祭りに集まった群衆の動きに身を任せながらそぞろ歩きしているとき、人びとの熱気を感じたり、妙な一体感がかきたてられたりする。そうした観光経験は集合的まなざしによって得られる。ビーチリゾートが芋の子を洗うように混み合っていること自体、リゾート地の雰囲気盛り立て、観光地の風景をつくりだしている。閑散とした観光地はそれだけで魅力を失ってしまう。集合的まなざしを向けながら観光客は観光地を消費しているのである。

むろん、観光地の人混みや俗っぽさを避けて、自然美に独り静かに浸りたい観光客も多いことだろう。ロマン主義的なまなざしはこうした観光客のまなざしである。集合的まなざしが大衆的で平等主義的な性格をもつ一方で、(B) ロマン主義的まなざしは、エリート主義的であり、孤独で内面に向かうような観光のフレームである。ロマン主義は、近代人(あるいは文明人)であれば誰もが自然に対して感動できるのだという考えを打ち出し、「風景」を発見した。しかしそれゆえに「自然」を愛するということは、ある種の教養や「文明」の証しにもなる。農村を訪れ田園風景を愛でている都会の教養人は、その風景を「美しい」と感じる自分の感性にもうっとりしている。水平線に沈む夕日に陶醉する観光客は、インテリ都会人のメンタリティを内面化し、悦に入っている。ビーチリゾートの誕生以前には、漁村の家屋は海岸に背を向けて建てられていたことも多かった。海は漁場でしかなかったからだ。同様に、急峻な山々は、観光のまなざしがなければ、行く手を阻む単なる障害物でしかない。こうした認識を改めさせたのがロマン主義的まなざしである。ロマン主義文学の祖のひとり、J-J・ルソーが『告白』(1766年頃)でスイスの山々を称賛し、神秘的で荘厳な「風景」を情熱的に語って以来、スイスの山岳風景は各自が孤独に享受したいと願うような「自然の霊場の一種」になった(アーリ他 2014)。

こうした(C) 集合的まなざしとロマン主義的まなざしによる観光地の選別は、観光客の個性の表明である一方で、階級制を帯びたものでもあり、共同性/個別性、平等化/差異化が観光の中で両立していることを示している。

では必ずしも、一つの課題を行うときのやり方を、別の課題を行うときに応用できるわけではないからです。

注) AI 人工知能

ウィリアム・テル 14 世紀初頭にいたとされる、スイスの英雄。弓の名手で、息子の頭の上に置いたりんごを見事に射抜いたという逸話がある。

(出典:川添愛『ヒトの言葉 機械の言葉―「人工知能と話す」以前の言語学』KADOKAWA、2020 年、237-240 頁。)

[問 1] 下線部 (A) について、このような論調は AI に対するどのような見方に基づいているのか。本文に即して、50 字以内で答えなさい。

[問 2] 下線部 (B) について、筆者がこのように述べる理由を、機械と人間の違いを明確にして、100 字以内で説明しなさい。

[問 3] 近年、言葉を扱う AI は、質問応答や機械翻訳、対話など多方面の課題（タスク）に応用され、著しい成果を上げている。AI も高い精度で言葉を扱えるようになってきたが、このような状況下で私たちが外国語学習をする意義とは何なのか。本文の内容を踏まえ、300 字以内で自分の考えを述べなさい。

Ⅱ．次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

AI が将棋や囲碁で人間のプロに勝ったり、クイズショーで人間のクイズ王を破って優勝したり、大学入試問題で人間の受験生の平均を上回る得点を出したりするたびに、「AI が人間を超えた」などと言われます。実際、AI がそれらの課題で人間に勝つのは驚くべきことです。しかし気になるのは、「将棋や囲碁で人間に勝ったから、その AI は人間より優秀だ」「クイズや入試問題で人間のスコアを超えたから、その AI はそこら辺の人間よりも高い言語理解能力を持っている」というふうに、(A) AI が一つの課題で高いスコアを収めたことを他のあらゆる課題にまで広げるかのような論調が少なくないことです。

(中略) AI が一つの課題で「人間と同等か、あるいは人間よりも優秀なスコア」を出せたからと言って、同じ AI が他の課題でも同様の振る舞いを見せられるとは限りません。

「ウィリアム・テルが弓で射た果実は何？」という質問に正しく「りんご」と答えられる AI が、りんごの画像をみかんの画像と見分けられるとは限りません。同様に、囲碁でプロに勝つ AI が将棋を指せるとは限りませんし、また「あなたがやっているゲームの名前は？」と聞いたところで「囲碁です」と答えられる保証もありません。たとえ人間にとっては似たような仕事であっても、AI にとっては完全に別ものである場合が少なくないのです。よって、人間から見て高度に知的な課題をこなす AI に対して、単純に「これができるんだから、あれもできるはず」と考えることはできないわけです。

「だったら、将棋とか囲碁とかクイズとか翻訳とか会話とか画像認識とか自動運転とか、それぞれの課題で高いスコアを出せる AI を作って、それらを全部一つのロボットに搭載したらいいんじゃないか」と思う人もいらっしゃるでしょう。そういうロボットを作ってもうまく動かすには、さまざまな状況で今すべき課題をどうやって見分けるかが焦点になりそうです。そして、もしそこをクリアできれば、かなり役に立つ機械ができるかもしれません。

しかし、(B) そういう「欲しい機能全部載せ」をした機械が人間と同じ知性を持っているかという、なかなかそうは言いづらいと思います。そのような AI を「人間と同じ」と認めるということは、「人間というのは、瞬間瞬間に課題を切り替える機械のようなものだ」という考え方を受け入れることになります。確かに、私たちの実感として、そういう考え方が多少しっくりくることは否定できません。どなたでも、普段の生活で「今は職場にいるから仕事モードだけど、家に帰れば子供がいるので子育てモードになる」といった「切り替えの感覚」を経験されていると思います。

ただ、私たち人間は、目の前の課題ごとに何もかもを切り替えているわけではありません。むしろ、ある課題で使う知識や能力を別の課題にも活かしています。たとえば、将棋のプロ棋士がチェスや麻雀^{マージャン}でチャンピオンになる例がありますが、その際に将棋で培った「読み」の能力を応用していることは間違いありません。こういったことは、「それぞれの課題で高いスコアを出す機能を全部搭載していること」とは異なります。そういった機械

(出典：野村明宏著「観光と文化 - 真正性をめぐって」井上俊編『〔全訂新版〕現代文化を学ぶ人のために』、世界思想社、2014 年、198-200 頁)

[問 1] 下線部 (A) に関して、「「風景」は記号を通してすでに構築されている」とはどういう意味か、本文を踏まえて 100 字以内で述べなさい。

[問 2] 下線部 (B) に関して、筆者はなぜ「ロマン主義的まなざしは、エリート主義的」であると考えているのか、その理由を 150 字以内で述べなさい。

[問 3] 下線部 (C) に関して、ツーリストによる「集合的まなざしとロマン主義的まなざしによる観光地の選別」が地域社会や観光地にどのような影響を与えると考えられるか、あなた自身の考えを 300 字以内で述べなさい。